小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮　崇
事業所名	小規模多機能型居宅介護千手	管理者	廣川　丈人

法人・事業所の特徴	地域との繋がりを大切にし、概ね3km以内の方より利用して頂いております。 その方の生活パターンや習慣・家族状況に応じ柔軟なサービス提供を行う事で、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしていける事をお手伝いしています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	2人	0人	2人	0人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価の理解を深める。なぜその評価が必要なのか理由を考え、根拠ある支援を実践する。	項目ごとの内容が確認できるように項目の表現を分かりやすい内容に置き換えて考えられるように説明を行う。 ただし、普段の支援も評価ありきにならぬように注意を行う。	具体的に達成可能な目標設定にしている。ただし妥協せずに事業所の向上が図れる目標設定も心がけるようにしていく。	事業所自己評価の項目を踏まえ、日々の支援内容の根拠を理解し、支援に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	センターの案内だけでなくセンターの活用方法を具体的に提示し、活用しやすい環境を整える。	今年度は新型コロナウィルス感染症拡大予防の為に地域交流スペースの活用が出来ませんでした。活動は出来ませんでしたが、11月より少しでもセンターを知ってもらえればと思い、置き看板を設置しセンターや介護関連の読み物を作成し貼りだす取り組みを開始しました。お近くを通る際にはぜひご覧ください。	パン屋の駐車場に入った時にサポートセンター千手の存在が分かった。道路から奥に入っているので、足を止めて頂き1歩入る事が出来れば、ガラス貼りの建物で職員も気づいてくれるので入りやすいのではないか。その足を止めてもらえる対策として面白いと思う。	センターを活用できる物、福祉関係の内容の看板を設置しセンターの存在を提示していく。
C. 事業所と地域のかかわり	千手カフェ・行事を通じ、地域の方がセンターに求める内容の把握に努める。	前項同様の内容になりますが今年度は新型コロナウィルス感染症拡大予防の為に地域交流スペースの活用が出来ませんでした。千手カフェを始め行事やイベントも中止し、地域の方との交流が出来ない状況でした。普段の関わりを気を付けて取り組んできました。	今年度は町内の活動自体中止したので関わりを持てなかったことは仕方なかったと思う。 職員の対応も問題なかったので、今後も継続してお願いしたい。	様々な情報を得られるように地域の方、ご利用者の近隣の方との関わりを積極的に行っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを 支える取組み	地域の行事への参加を継続していく。 参加できない場合はセンターの行事や普段の支援で代替できるように計画を行う。	地域の活動にも参加出来ておりませんでした。オレンジカフェは中止となりましたが、例年行事として開催している花火鑑賞会、千手祭や介護の日の勉強会などは地域の方をお呼びできませんでした。しかし、中止で終わるのではなくセンターご利用者の方に楽しんでもらえるように企画をしたり、職員の学びの機会として企画をして取り組んできました。	新型コロナウィルス感染症拡大防止の観点から行事等が中止になっているが、ご利用者主体で企画をしている。制限が解除されるまで新しい生活様式を踏まえた企画が大事になってくると思う。やらないのではなく、出来る事を探す姿勢を持って欲しい。	地域包括支援センター、民生委員の方を始め、地域の方の情報共有を行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	担当者会議、事前訪問、地域の研修へ職員が参加できるよう調整を行う。参加した職員より伝達講習を行い学びを深める。	会議、研修等も積極的な参加を促せない状況でした。事前訪問については業務を調整し、ご利用開始前にご自宅を訪問させて頂き、現地での確認を行う事が出来ました。研修は会場での参加は難しいことからオンラインでの研修に参加する新しい取り組みにも挑戦が出来ました。今後オンラインであれば職員の調整も可能かと考えております。	今はどこの事業所も中止となっている所が多く、外部評価全てを書面で行う所もある。 書面での外部評価は難しい面もあるが、評価資料として写真などを作成してもらったことは、分かりやすい点もあったので良かったと思う。書面での評価も良い点があるかもしれないが、実際に顔を合わせて行える機会があると、色々な意見交換が出来良いと感じる。事業所も開催に向けて難しい事が多いと思う。	担当者会議、事前訪問へ職員が参加できるよう調整を行う。基礎的な内容の研修の場を設ける。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時のセンターの使い方を周知する。 災害時でも地域と事業所が互いに協力できるように普段の関わりを大事にする。	災害時のセンターの使い方をお伝えする機会が設けられなかったです。 避難訓練を実施している中で新たな課題も見えてきております。センター内でも避難時にどう動くかを検討し、地域の方にも動きが伝えられるよう活動したいと考えております。	災害はいつ起きるか分からないので、普段から地域の広い場所、高い場所の関係者との関わりも大事になってくる。「住んでいないから入るな」と考えられている方もいるので、普段からの関わりで避難できる場所も増えてくるのではないか。今のうちから考えておくことも必要だろう。	災害時のセンターの使い方を周知する。 災害時でも地域と事業所が互いに協力できるように普段の関わりを大事にする。